

貯法
室温保存
使用期限
外箱に表示（4年）

**経口黄体ホルモン製剤**

 ※※処方せん医薬品<sup>(注)</sup>
**プロゲストン<sup>®</sup>錠5mg**

 メドロキシプロゲステロン酢酸エステル錠  
 PROGESTON tablets

日本標準商品分類番号

872478

承認番号	21300AMZ00620000
薬価取載	2001年9月
販売開始	1974年3月

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

**【禁忌（次の患者には投与しないこと）】**

1. 脳梗塞、心筋梗塞、血栓静脈炎等の血栓性疾患またはその既往歴のある患者  
 [血栓症を起こすおそれがある。]
2. 重篤な肝障害・肝疾患のある患者  
 [作用が増強されるおそれがある。]
3. 診断未確定の性器出血、尿路出血のある患者  
 [病因を見のがすおそれがある。]
4. 稽留流産  
 [妊娠維持作用により子宮内で死亡している胎児の排出が困難になるおそれがある。]
5. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

 (4) 片頭痛、喘息、慢性の肺機能障害またはその既往歴のある患者  
 [病態に影響を及ぼすおそれがある。]

 (5) 糖尿病の患者  
 [糖尿病が悪化することがある。]

 (6) ポルフィリン症の患者  
 [症状が悪化するおそれがある。]

**2. 重要な基本的注意**

(1) 流早産以外の患者に投与する場合は問診、内診、基礎体温の測定、免疫学的妊娠診断等により、妊娠していないことを十分確認すること。

(2) 本剤を妊娠維持の目的で投与する場合は、黄体機能不全によると考えられる流早産にとどめること。また、妊娠状態が継続しているか否か確かめること。

**3. 相互作用**
**併用注意（併用に注意すること）**

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ホルモン剤 黄体ホルモン 卵胞ホルモン 副腎皮質ホルモン等	血栓症を起こすおそれがある。	相加作用が考えられる。

**4. 副作用**

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

**(1) 重大な副作用（頻度不明）**

 1) **血栓症**：本剤成分の高用量製剤で、脳梗塞、心筋梗塞、肺塞栓症、腸間膜血栓症、網膜血栓症、血栓静脈炎等の重篤な血栓症があらわれたとの報告があるので、観察を十分に行い、このような症状またはこれらの初期症状があらわれた場合には、投与を中止し適切な処置を行うこと。

 2) **うつ血性心不全**：本剤成分の高用量製剤で、うつ血性心不全があらわれたとの報告があるので、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には、減量または休薬等適切な処置を行うこと。

 3) **ショック**：ショックがあらわれたとの報告がある。呼吸困難、全身潮紅、血管浮腫、じん麻疹等のアナフィラキシー様症状を伴うことがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、血圧の維持、体液の補充管理、気道の確保等の適切な処置を行うこと。

 4) **乳頭水腫**：乳頭水腫があらわれたとの報告がある。視力の低下または消失、眼球突出、複視、片頭痛が急にあらわれた場合には、投与を一時中止し、眼科的検査を行うこと。その結果、乳頭水腫であると診断された場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

**【組成・性状】**

販売名	プロゲストン錠5mg	
有効成分	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル	
含量（1錠中）	5mg	
添加物	乳糖水和物 結晶セルロース トウモロコシデンプン タルク ステアリン酸マグネシウム	
色・剤形	白色の割線入り裸錠	
外形		
大きさ	直径	7.0mm
	厚さ	2.3mm
	質量	120mg
識別コード	FJ32	

**【効能・効果】**

無月経、月経周期異常（稀発月経、多発月経）、月経量異常（過少月経、過多月経）、機能性子宮出血、黄体機能不全による不妊症、切迫流産、習慣性流産

**【用法・用量】**

メドロキシプロゲステロン酢酸エステルとして通常成人1日2.5～15mgを1～3回に分割経口投与する。

**【使用上の注意】**
**1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）**

- (1) 心疾患・腎疾患のある患者またはその既往歴のある患者  
 [ナトリウムまたは体液の貯留があらわれることがある。]
- (2) うつ病またはその既往歴のある患者  
 [副腎皮質ホルモン様作用により病態に影響を与えるおそれがある。]
- (3) てんかんまたはその既往歴のある患者  
 [副腎皮質ホルモン様作用により病態に影響を与えるおそれがある。]

## (2) その他の副作用

下記のような副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には減量・休薬等の適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過敏症 <sup>①)</sup>	発疹
肝臓	肝機能の異常、黄疸
電解質異常	浮腫、体重増加
消化器	腹痛、悪心・嘔吐、腹部膨満、食欲不振、下痢
精神神経系	めまい、頭痛、眠気、神経過敏、不眠、抑うつ
内分泌	乳房痛、月経異常、子宮出血、乳汁漏出、満月様顔貌、無月経、子宮腔部びらん、帯下の変化
糖代謝	耐糖能異常
全身症状	悪寒、けん怠感、発熱
皮膚・粘膜	脱毛、多毛、ざ瘡、そう痒感、じん麻疹

注) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

## 5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

### (1) 大量または長期投与を避けること。

[妊娠初期、中期に投与した場合には、女子胎児の外性器の男性化または男子胎児の女性化が起こることがある。]

(2) 黄体ホルモン剤の使用と先天異常児出産との因果関係はいまだ確立されたものではないが、心臓、四肢等の先天異常児を出産した母親では、対照群に比して妊娠初期に黄体または黄体・卵胞ホルモン剤を使用していた率に有意差があるとする疫学調査の結果が報告されている。

(3) 授乳婦に投与する場合には授乳を中止させること。  
[動物実験(ラット)で乳汁移行が認められている。]

## 6. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児または小児に対する安全性は確立していない(使用経験がない)。

## 7. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤の投与により、下記の検査値が低値を示す可能性がある。

[血清または尿中ステロイドホルモン(コルチゾール、エストロゲン、プロゲステロン等)、血清または尿中ゴナドトロピン(黄体形成ホルモン等)、性ホルモン結合グロブリン]

## 8. 適用上の注意

**薬剤交付時:** PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起して縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)

## 9. その他の注意

(1) 経口製剤での臨床試験成績はないが、外国において、本剤有効成分を含有する筋注製剤の長期投与で骨密度の減少が認められたとの報告がある。

(2) ビーグル犬に投与すると乳房に小結節が生じ、そのうちいくつかは悪性であったという報告およびサルに投与すると子宮内膜癌を生じたという報告がある。

## ※【薬物動態】

### 溶出挙動

プロゲステロン錠5mgは、日本薬局方外医薬品規格第3部に定められた酢酸メドロキシプロゲステロン錠の溶出規格に適合していることが確認されている。<sup>3)</sup>

## 【薬効薬理】

### 1. 経口で強い黄体ホルモン作用を有する。<sup>1)</sup>

幼若雌ウサギにメドロキシプロゲステロン酢酸エステルを経口投与したところ、エチステロンの144.9倍、19-ノルメチルテストステロンの5.8倍の活性を示した。

### 2. 強い妊娠維持効果を有する。<sup>2)</sup>

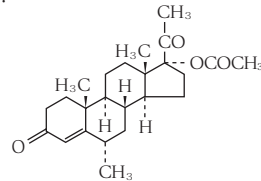
男性ホルモン・卵胞ホルモン様作用をほとんど示さず、強い妊娠維持効果がある。

## 【有効成分に関する理化学的知見】

一般名: メドロキシプロゲステロン酢酸エステル  
(Medroxyprogesterone Acetate)

化学名: 17-Hydroxy-6 $\alpha$ -methyl-4-pregnene-3,20-dione acetate

構造式:



分子式: C<sub>24</sub>H<sub>34</sub>O<sub>4</sub>

分子量: 386.52

性状: 白色～微黄白色の結晶性の粉末で、においはない。クロロホルムに溶けやすく、アセトンまたは1,4-ジオキサンにやや溶けやすく、アセトニトリルまたは塩化n-ブチルにやや溶けにくく、メタノール、エタノール(99.5)またはジエチルエーテルに溶けにくく、水またはヘキサンにほとんど溶けない。

融点: 204～209℃

## ※【取扱い上の注意】

### 安定性試験

最終包装製品を用いた長期保存試験(室温、なりゆき湿度、4年)の結果、外観および含量等は規格の範囲内であり、プロゲステロン錠5mgは通常の市場流通下において4年間安定であることが確認された。<sup>4)</sup>

## 【包装】

100錠(PTP)、1,200錠(PTP)

## 【主要文献】

- 1) 足高善雄 他: 産婦人科治療, 2(5), 573, 1961
  - 2) 松本清一 他: ホルモンと臨床, 11, 580, 1963
- ※3) 富士製薬工業株式会社 社内資料(溶出挙動)  
※4) 富士製薬工業株式会社 社内資料(安定性試験)

## 【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。  
富士製薬工業株式会社 富山工場 学術情報課  
〒939-3515 富山県富山市水橋辻ヶ堂1515番地  
(TEL) 076-478-0032  
(FAX) 076-478-0336